

「I F M I F 計画—核融合材料開発のための大強度重陽子加速器」

正誤表

2 ページ目：Table 1 下から 6 行目

5Mev → 5MeV

3 ページ目：右欄下から 7 行目

～現在→～2005 年現在

5 ページ目：左欄下から 5 行目

長期間の→長期間

5 ページ目：左欄下から 2 行目

高信頼性→高信頼

5 ページ目：右欄上方 2 行目

プラズマ生成を行い→プラズマ生成方式 (ECR) で

5 ページ目：右欄下から 6 行目

高信頼性→高信頼

5 ページ目：右欄下から 6 行目

1MW-CW→1MW-CW 定格

6 ページ目：左欄下から 3 行目

照射損傷→中性子照射による損傷量

6 ページ目：右欄上から 8 行目

1 次冷却系及び水冷却系→及び水による 2 次、3 次冷却系

6 ページ目：右欄上から 11 行目

Cr および→Fe-Ti および

7 ページ目：右欄上から 7 行目

中性化→中和化

18 ページ目：右欄上から 8 行目

マッチングに中止→マッチングに注意

18 ページ目：右欄下から 7 行目

最近、→現在の設計では、

22 ページ目：左欄上から 7 行目

(20cm×5cm) → (幅 20cm、高さ 5cm の一様分布)

24 ページ目：上から 2 行目

IFMIF 加速器プロトタイプ→IFMIF 加速器要素技術開発のまとめ

24 ページ目：上から 4 行目以後 (追記)

2.5 で述べた EVEDA では、これらの基本要素技術を統合した形での実証試験が行われることが望まれる。たとえば、入射器から DTL 初段タンクあたりまでのプロトタイプ試験機を製作し運転実証を行うことができれば、工学設計、並びに、その後の実機製作に大きな貢献をもたらすものとなるであろう。

以上